

7月9日(火)

たましいのめざめ

聖書朗読 詩篇 57:7~11

イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」

ヨハネ 20:16

私の朝の目覚めはいつも、目覚まし時計を止め、目をこすり、伸びをして、そしてコーヒーとともに始まります。しかし、私はだんだんと、目覚めているためには、コーヒーを飲んで得られる以上のはっきりとした意識が必要だと、気づき始めています。

詩篇ではこう詠われています。『私のたましいよ。目をさませ。』(詩篇 57:8)。もし私の意識が隅から隅まではっきりと目覚めていたら、私の人生はどんなものになるでしょう。

聖書の中で、復活を描く箇所の中のほんの一瞬の場面が、たましいの目覚めへの私の願いを強くかき立てます。マグダラのマリヤは、何の説明もなく空っぽになったお墓の前に佇み、深い悲しみと混乱に沈んでいました。マリヤはその悩ましい状況にひどく打ちのめされていたため、イエス様の生きた声も彼女の悲しみにくれる心に届かなかったのでしょう。そこでイエス様はもう一度、今度はたましいの目覚めをうながす一言で、彼女に呼びかけたのでした。「マリヤ」。この呼びかけで、初めて、とめどない喜びと賛美によってマリヤの心は目覚めたのです。

人のたましいは時にまどろむことがあり、イエス様の声によってのみ目覚めることができます。それは、ただ昔語られた言葉や、イエス様の再臨の際に語られるであろう言葉だけではなく、今この時に語られる言葉でもあります。主は私たちの名前を呼び、主の生きた存在によって私たちを捕らえ、私たちのうちに聖なる活力を燃え立たせ、神の愛に満ち、深く心をよみがえらせ、はっきりと目覚めた生へと、私たちを導くのです。

讃美歌 370

祈り 主よ。空しく邪魔な騒音を鎮めてください。野心や怖れが私の耳に聞こえないようにしてください。たましいを麻痺させる失望と痛みを消してください。私自身のすべてをあなたの生ける存在に目覚めさせてください

イエス様の御名によって。アーメン。

デイヴィッド・パウンズ
テキサス州 ラボック

7月10日(水)

緊急に！

聖書朗読 I テサロニケ 5:12~22

あなたの手もとにあるなすべきことはみな、自分の力でしなさい。

伝道者の書 9:10

驚いた！ たった 116 語で、パウロは、クリスチャンが生活する上で緊急に守るべき 17 の教えを与えてくれています。私たちの何人かは、日々するべきことをリストにして、そのうち緊急にしなければならないことには印をつけて目立つようにしています。パウロはここで、聖霊が私たちに日々しなさいといっていることを、実際に最優先としてすぐ行うようにと促しています。私たちが課題を毎日一つ選んで二週間の間にそれを行うことができたら素晴らしいでしょうに。

それには計画することが大切です。心を計画に集中し決断を下すこと。パウロからの緊急課題の一つを今日とりあげて、どのようにそれを実行するか決めなさい。そして一日の中で、それを行う時間をつくりなさい。その後、あなたがしたこと、結果として起こったこと、あなたが感じたことを書き留めておきなさい。

そうすれば、あなたは聖霊が宿るためにより良い場所を、あなたの世界につくることができるでしょう。

導きたまえ、永遠の王よ。

私たちは後に従おう、恐れなく。

朝が開けるように喜び、

あなたの顔があらわれるところなら、どこへでも、

あなたは私たちを持ち上げ、

私たちはその光のうちに旅する。

王冠が征服を待っている。

導きたまえ、ああ神よ。

——アーネスト・W・シャトレフ

讃美歌 321

祈り 親愛なる主よ。あなたの欲することを、私たちが今日行えるように助けてください。他人へ恵みを与えることができるように助けてください。
イエス様の御名において。アーメン。

チャールズ・コールストーン
ケニヤ ナイロビ

7月11日(木)

父の愛

聖書朗読 詩篇 61編

私たちが神の子どもと呼ばれるために、——事実、いま私たちは神の子どもです——御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。

Iヨハネ 3:1

エルサレムでは、彼の姿はどのように映ったことでしょう。ハンサムでカリスマ性のある王子アブシャロムは、50人のお供の後ろを、荘厳な馬にひかれた戦車に乗って町を駆け回っていたのです。近代的な策略家であったアブシャロムは、町の門に立ち、イスラエルの人々に挨拶し口づけしました。人々がアブシャロムを支持するようになると、彼は父であるダビデ王に背きイスラエルの王国を自分の手に入れようと企てました。

ダビデは町から逃れましたが、この追放の時期に詩篇61篇を書いたのかもしれませんが。アブシャロムが悲劇的な死を遂げた時、そのひどい裏切りにもかかわらず、ダビデは慟哭し、『わが子アブシャロム、アブシャロム、わが子よ。』と嘆き悲しみました。ダビデはアブシャロムをとっても愛していたのです。

クリスチャンは、「神の子ども」と呼ばれるほまれを受けています。私たちの天のお父様は、私たちが主の子どもとして、正しく忠実であり、主を裏切り背くことがないよう求めています。神がどれほど私たちを愛してくださっているか、思い出してみましょう。——主は私たちの罪のために死ぬために、イエス様を世に遣わしてくださったのです。神の息子、娘として、神の教えにしたがうことで、天の父に栄光と名誉をお返ししようではありませんか。

讃美歌 87b

祈り 天のお父様。あなたの子どもと呼ばれる名誉をくださり、ありがとうございます。世の誘惑に惑わされないよう、私たちに力をください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジェイン・ポー・マッシー
テキサス州 ヒューストン

7月12日(金)

新しい歌

聖書朗読 詩篇 96編

国々の中で言え。主は王である。

詩篇 96:10

ロサンゼルスは、さまざまな国の出身者で構成されている町であり、『主の栄光を国々の中で語り告げ』(3節)ています。今日の詩篇の箇所は、国々の中で私たちが告げるメッセージは、新鮮なもの、新しい歌であることを思い起こさせてくれます。

私たちは、主のご栄光を賛美し、『その奇しいわざを、すべての国々の民の中で』(3節)語り告げるべきです。そして、『栄光と力を主にささげ』『国々の中で言え。主は王である』(10節)と。さらに『主は、義をもって世界をさばき、その真実をもって国々の民をさばかれる』(13節)ことを教えます。このことは、私たちが語るべきメッセージについて何を意味しているのでしょうか？

1. 快活であること。主をたたえるとき、私たちはメッセージを語ります。
2. 前向きであること。私たちは、主がしてくださった良いこと、主の義、主のさばきは真実であることを語ります。
3. 包括的であること。メッセージは私たちだけのものではなく、全世界のためのものです。神様は、えこひいきはなさいません。

主をたたえるとき、私たちは、ご栄光といつくしみと強さに満ちた主というすばらしい知らせを分かち合います。主は、この世の王であり、最終的に義と真実をもってさばかれるお方です。このことは、私がより大きな喜びと確信をもって生き、さらに、すべての人がそのように生きることができることを意味しています。

讃美歌 第二編 194

祈り ご在天のお父様。あなたをもっと賛美できるように助けてください。あなたの奇しいわざという新しい歌を、みんなと分かち合うことができまうように助けてください。たとえ、その人がどこの国の出身であろうとも。

イエス様の御名を通して。アーメン。

ビリー・シルベイ
カリフォルニア州 ロサンゼルス

7月13日（土）

勇 気 の 源

聖書朗読 I テサロニケ 5:12~28

あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。
I テサロニケ 5:24

勇気はどこから湧いてくるのでしょうか？ この圧倒的な力で優勢な敵と何一つ実績のないちっぽけな挑戦者の対戦は今や象徴的なものとなっています。全米大学バスケットボール選手権での「ダビデとゴリアテの戦い」を覚えているでしょうか？それはバトラー大学（ダビデ）とデューク大学（ゴリアテ）の対戦でした。両大学の歴然の力の差のために、この呼び名がつけました。私たちの多くは、勝ち目のない、小さな、いまだ勝ったことのない挑戦者の方に声援を送りました。

しかし、本物のダビデとゴリアテが対決したとき、誰もダビデにチャンスがあるとは思いませんでした。ダビデはあまりに若く、あまりに小さく、あまりに経験不足で、装備不足でした。しかし、ダビデだけは違っていました。ダビデは下馬評を信じることなく、神様の力を信じました。ダビデはその自信の根拠をサウロにこう説明しました。『獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してください。』（I サムエル 17:37）

ダビデのポジティブな思考がダビデにこう思わせたのではなく、ダビデは神様の本質を知った上での考えでした。この牧童は試練の中、彼の羊飼いについて多くのことを学びました。

ダビデの偉大さは、彼の神への信頼で説明することができます。ダビデの勇気は彼の信仰から来ています。

そして同じことが私たちにも言えるのです！

聖 歌 233

祈 り 全能なる神、お父様。今私たちの目の前には、自分がいかに弱く、いかに小さいか感じてしまうほどの巨人がいます。今まで力強く私たちを救い出してくださったこと、あなた様のご加護と喜ばしい計画を思い出させてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ステイーブ・スチュワート
ニューメキシコ州 グランツ

7月14日（日）

霊 の 家

聖書朗読 I ペテロ 2:4~12

主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。

I ペテロ 2:4~5

私たちは、神の家の基礎である、主イエス・キリストを賛美します。私たちは、神を賛美し、キリストを通して、生ける石として神の住む家に築き上げられたいと願います。私たちはともに、すべてを理解するための平安を得ます。私たちはともに、罪と罪悪感からの解放を喜びます。私たちはともに、まばゆい光に包まれます。私たちはともに、建築家であり大工である神に、自分自身を差し出します。私たちは、時間や場所ではなく、人生におけるもっとも偉大な絆、神の愛によって結ばれているのです。

私たちが使徒と預言者という土台の上に建てられていることに、神に感謝します（エペソ 2:20）。生ける石である私たちは、神の御言葉というモルタルでつながられています。私たちは、神の御言葉は欠けるところのない、私たちの足元を照らす灯である、という確信をともに分かち合い、パンのみでなく、神の口から出る一つの言葉によって生きることを、ひたすら願います。

私たちは互いのために神を賛美します。土台のない建物などあるでしょうか。私たちは、泣く者のために泣き、喜ぶ者とともに喜びます。私たちは集まり、愛しあい、良い行いをするよう、互いに働きかけます。今日の石は、過去の石の上に積み上げられ、神の神聖なる家がどんどん高く築き上げられ、主の力と威光の証しとなるのです。

聖 歌 201

祈 り 親愛なる主よ。神の愛と御言葉のひかりのもとに、私たちが結束できることに感謝します。

イエス様の御名によって。アーメン。

ステイーブ・ジンファー
ジョージア州 ウィンタービル